

## 令和3年度第2回山口県地方薬事審議会 質疑・意見取りまとめ

- 1 日 時：令和4年3月18日(金) 書面開催  
 2 質 疑：以下のとおり

主な質疑・意見等	事務局回答
<p>《議 題》            第1号 地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の認定状況等について（報告）</p>	
<p>[主な質疑等]</p> <p>1 認定状況に関する報告            (今村委員)</p> <p>認定薬局が萩・長門にせめて一つでも設置されることを期待する。(全国的な進捗状況からすれば山口県薬務課は良く頑張られていると思う)</p> <p>アンケートからも、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の必要性は認識できているものの、取得のメリットとハードルの高さが取得を躊躇われているように感じる。</p> <p>啓発活動の強化と共に、より現実的な制度設計に変更することも視野に入れて、制度設計の(地方の県としての)問題点などを厚労省に伝えていくことが必要と思う。</p> <p>(井上委員)</p> <p>「薬局の認定制度がスタートしました」と、ポスターにあるが、地域連携薬局のメリットが一般の方には、理解しにくいと思う。</p> <p>(吉田委員)</p> <p>山口県は小規模(常勤換算して薬剤</p>	<p>萩・長門地域における認定薬局は、第2回審議会(R4.3.18)以降、萩に1か所設置されました。R4.7.22現在、未設置の長門地域を含め、啓発を行っていきます。</p> <p>また、令和4年度、県事業で設置した認定薬局普及促進ワーキンググループ(以下、「WG」という。)において、制度設計上の問題点等が見出されれば、必要に応じて、県から国に伝えていきたいと考えています。</p> <p>御意見ありがとうございます。次回作成時の参考といたします。</p> <p>御意見ありがとうございます。</p>

師2名以下)な薬局が多く、認定薬局の機能を有する常勤換算3名以上で認定要件を満たす薬局が少ないことが他の都道府県と比較して出遅れている要因と思われる。

(関谷委員)

山口県として地域連携薬局・専門医療機関連携薬局について目標軒数までの推進方法等今少し具体的に方針等教えてほしい。

(樋口委員)

今年の会議では認定薬局(地域・専門)の申請予定数と検討中が示されていた。検討中の薬局が認定薬局にならなかったのはどんな理由か。実際には居宅等での調剤業務での実績薬局がかなりあるようなので現実に即しながら進めていっても良いのか。人材・仕事量・資金等クリアすることも多々あるようだが、患者側に立つとその問題が支払う薬価に反映されるのではないかと不安もある。

アンケートの中で、薬局の構造設備でプライバシー設備については法令の定めによる考え方での80%との回答だったのか。認定薬局を目指す薬局だけでなく審査基準の考え方に沿った設備にして頂ければと思う。

目標軒数までの推進方法については、今年度設置しているWGにおいて、課題解決に向けた改善策の検討やマニュアル/事例集の作成を予定しており、その結果を踏まえ、普及に向けた具体的な方法を検討します。

WGの中では、要件の中の、地域包括ケアシステムの構築に資する会議への参加や、地域における医療機関に勤務する薬剤師等に関する報告及び連絡した実績の要件が難しいという意見がありました。

また、プライバシー設備については、認定薬局のみならず、一般の薬局においても重要であることから、今後も患者のプライバシーへの配慮の促進について、啓発していきます。

## 2 令和3年度の取組

(井上委員)

地域包括支援センターやケアマネジャー、医療機関、介護施設との連携がもう少し簡略できればと思う。

(吉田委員)

複数薬局を有する開設者対象のアンケートは実態を把握する上で有効な資料になると思われる。特に地域包括内の多職種との連携においては、アンケート結果からも不十分な状況であるため、認定に向けて対応課題が明確になって良いと思われる。アンケート結果を更に掘り下げるため、必要に応じ、追加アンケートを実施すべき。

(樋口委員)

認定薬局では実際にどのようなことが患者さんにメリットをもたらしたか、具体的に示していただくと利用する患者にとっては分かり易いと思う。

啓発の方法だが、薬局や病院には沢山のポスターが貼ってある。時には貼ってあるその上にも重ねて貼ってあるポスターを見かける。県民への周知にポスターやホームページという事だったが、なかなか県のホームページを読む方は少ないのかなと思っている。薬に縁のある方は高齢者が多いと思うからで、啓発の仕方も見ても分かり易い方法も取り入れられたら良かったと思う。

WGに地域包括支援センターの方も参画していることから、連携方法についてもマニュアルに盛り込むなど、連携しやすい手法を検討します。

WGにおいて、必要があればアンケートを実施します。

啓発方法について御意見ありがとうございます。次回、ポスター等を作成する際、患者さん側のメリットをわかりやすく示すことで、県民に向けた普及啓発を図ります。

### 3 令和4年度の認定薬局の普及に向けた取組案

(今村委員)

賛同する。

認定に向けた薬局への様々なサポートと共に、制度に対しての問題点の分析をぜひ願います。

(井上委員)

「山口県は小規模薬局が多く、単独では機能的に不十分な部分を連携して補うことが重要」 p11

どのように連携することが可能なのか。

(吉田委員)

現在の認定されている薬局の状況から、常勤換算3名以上で認定要件を満たす薬局をリストアップし、医療圏ごとに認定に向けての課題を対応していくことが重要と思われる。そのためワーキンググループで検討される資料として、常勤換算3名以上で認定要件を満たす薬局リストを要望する。

(関谷委員)

利用者に安定的に医薬品等を提供する体制において健康サポート研修修了者専門薬剤師に係る学会の会員の推進をどう県としてサポートするのが重要だと思う。

現状ではなかなかこれ以上進んでいか

WGにおいて制度上の問題点についても検討したいと思います。

個別のアンケートの回答に関する内容となりますが、地域連携薬局は薬局間連携を主たる目的とはしていないものの、今後の方向性の1つとして、医薬品の在庫に関することや無菌製剤処理などでの連携が考えられます。

8月に開催予定の第2回WGにおいて対応したいと思います。

健康サポート薬局研修については、薬学的な健康サポート事業などを通じて、薬剤師の研修受講を促すとともに、若手薬剤師などでは、県内への就業が減っているため、県内の若手薬剤師の定着の取組を強化したいと考えています。

ないのでは？難しい問題だが山口県下の就労薬剤師数にも関係があるような気がする。

(樋口委員)

県民への普及啓発については2番目で書いたよう、高齢者に分かり易い啓発の仕方を。その為には高齢者が集まるサロンを利用するのも一手かなと思う。

現在、居宅等での調剤業務を行っている薬局では患者家族や本人からの要望や意見はあるのか。患者は処方された薬についてどのような疑問を持つのか持たないのか、私自身患者になったときに何をどう聞けばいいのかきつと分からないと思う。こんな場面での説明の仕方やしっかりと傾聴することが信頼関係を構築していくのではないか。そして信頼の一つとして認定薬局であることが大きな役割を果たすのではと考える。

#### 4 その他

(今村委員)

「STOP！大麻！」対策は今後とも強化を期待する。

(井上委員)

萩や長門の薬局が少ないようだが、病院の数は、どうなのか。

(吉田委員)

専門医療機関連携薬局の認定にはが

御意見ありがとうございます。高齢者が集まる場などの活用など、啓発手法の参考とさせていただきます。

なお、居宅等での調剤においては、患者さんとのコミュニケーションや信頼関係は特に重要となると考えられますので、ヒアリング等でうまくいっている事例などがあれば、横展開を図りたいと考えています。

御意見ありがとうございます。

病院の数も少なく、病院の薬剤師数も著しく不足している状況です。

御意見ありがとうございます。近くの研

ん専門薬剤師の研修が不可欠である。県内では研修施設が山口大学医学部付属病院のみであり、毎週通うには研修可能な地域が限られるため、研修施設を増やすことが喫緊の課題である。

(関谷委員)

薬事審議会で議論する内容ではないのかもしれないが、後発品等の供給不安の状況が山口県下でも継続して発生をしている。患者さんに必要な薬が必要な時に届けられない非常事態である。薬局の薬剤師さんも納品する立場の医薬品卸もかなりの時間を手配等に時間を要している。

山口県としてはこの現状をどう思っているのか？

現況では地域連携薬局・専門医療機関連携薬局の申請等にも大きな影響があると思われる。

(樋口委員)

健康な人には薬は縁のないものである。しかし知っていると知らないとは大きな違いである。県民の誰でもが地域の薬局で気軽に薬の事が聞けたらと思っている。やはり疾患がないと薬局は敷居が高い。健康エキスパート薬剤師の活躍を期待する。

(古田委員)

動画の資料が不鮮明だった。

修施設に通えるよう、県内の研修施設の増加を図りたいと考えています。

御意見ありがとうございます。

県としては、医薬品の安定供給は重要と認識しており、医療機関や薬局に国の通知を周知し、適切な発注をお願いしています。

なお、国において、医療用医薬品の安定供給の方策検討のための有識者会議を設置することとしており、議論を注視し、必要な対応を行いたいと考えています。

御意見ありがとうございます。

県では、今年度実施する、健康エキスパート薬剤師による「薬と健康相談キャンペーン」などを通じて、県民が健康エキスパート薬剤師に気軽に相談を受けられるような機運を高めていきたいと考えています。

御意見ありがとうございます。

## 薬剤師の需給状況調査結果について

### 1 調査の背景・目的

- ・ 下図のとおり、山口県の若手薬剤師は減少傾向にあり、薬学的な健康サポートや在宅医療に対応するための必要な薬剤師を将来にわたって確保するため、今後の薬剤師のあり方の検討が必要
- ・ そのため、県内薬剤師（薬局・病院）の不足状況や地域偏在、業種偏在、離職状況、需要・供給状況の詳細や将来的な予測について、山口東京理科大学薬学部下川教授に委託して、調査を実施

(図：山口県の若手薬剤師数の推移)



### 2 調査方法

#### ○薬剤師の需要推計

薬局薬剤師	病院薬剤師	その他の薬剤師
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆薬機法で定められた最低必要数から推計</li> <li>◆上記に加え、居宅等での調剤業務を考慮した必要数の推計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆薬剤師一人当たりの入院患者数（全国水準）に基づき推計</li> </ul>	一般診療所、介護保険施設、大学、医薬品関係企業、行政等の薬剤師数を推計

#### ○薬剤師の供給推計

- ・ 薬剤師届等の統計値や、薬局、病院、学生のアンケート結果をもとに、県内外への異動や、山口東京理科大学卒業生等による影響を考慮し計算。

### 3 調査結果（確報値）

#### ○現在

病院と薬局間、二次医療圏間の薬剤師の偏在を無視すれば、需給均衡

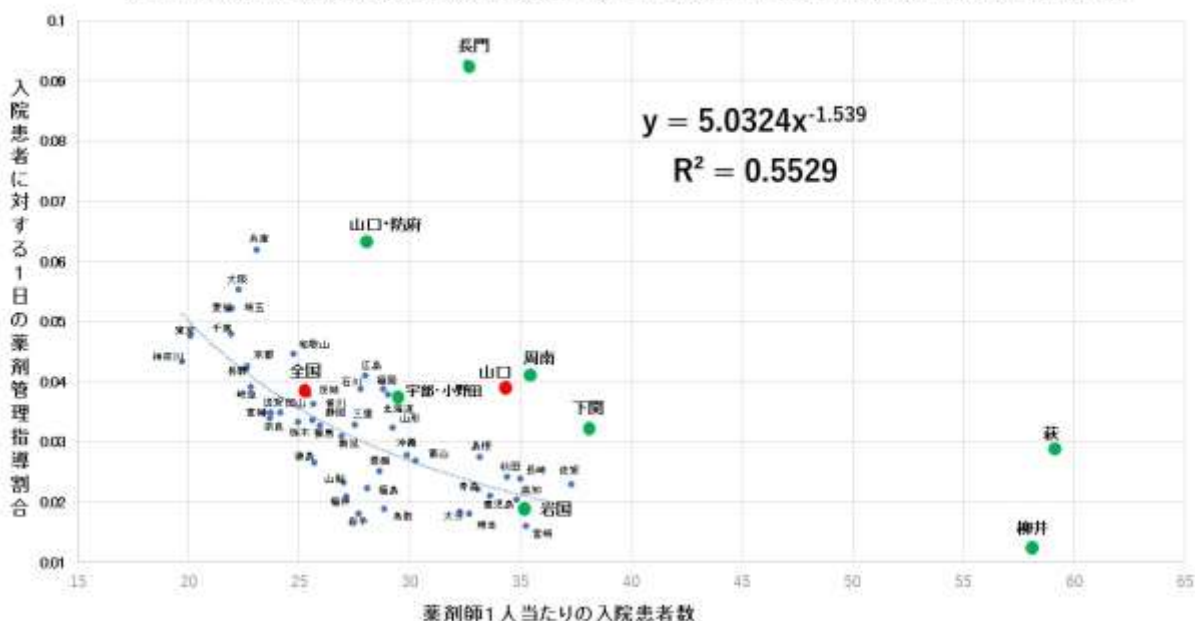
- ・ 薬局薬剤師：長門、萩は慢性的な不足。それ以外は充足又は均衡
- ・ 病院薬剤師：すべての二次医療圏で不足。特に、萩、柳井が著しく不足

		2008年	2010年	2012年	2014年	2016年	2018年
需要		2,891	2,977	3,053	3,197	3,232	3,274
供給 (薬剤師届数)	勤務薬剤師数	2,891	2,916	3,032	3,091	3,236	3,294
	69歳までの薬剤師数(退職者含む。)	2,851	2,863	2,949	3,013	3,136	3,153
	79歳までの薬剤師数(退職者含む。)	2,980	2,999	3,096	3,169	3,309	3,378
勤務薬剤師数(供給)－需要		0	-61	-21	-106	4	20

2008年から2018年までの二次医療圏ごとの薬局薬剤師数の需給状況

地域		2008年	2010年	2012年	2014年	2016年	2018年
二次医療圏	岩国	不足傾向	不足	不足傾向	均衡	充足	均衡
	柳井	不足傾向	不足傾向	均衡	不足傾向	充足	充足
	周南	充足	充足	充足	充足	充足	充足
	山口・防府	充足	不足傾向	均衡	均衡	充足	充足
	宇部・小野田	充足	充足	充足	充足	充足	充足
	下関	均衡	均衡	均衡	不足傾向	充足	充足
	長門	非常に不足	不足	不足	非常に不足	非常に不足	不足
	萩	不足傾向	非常に不足	不足	不足	不足	不足傾向
山口県全体		均衡	均衡	均衡	均衡	充足	充足

薬剤師1人あたりの入院患者数と入院患者数に対する1日の薬剤管理指導回数の割合の関係



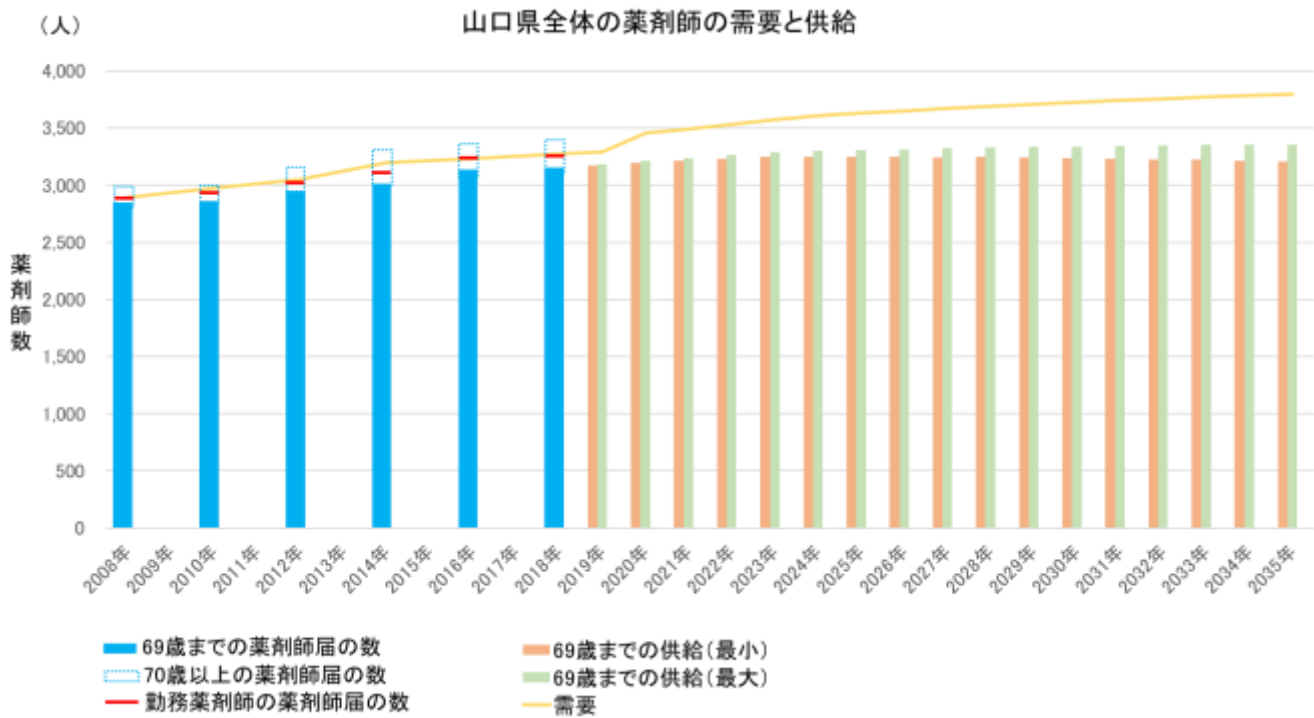


### ○将来予測

需要：今後、薬局での在宅医療への対応や病院での入院患者に対する薬剤管理指導件数の増加に伴い、増加

供給：今後新たに薬剤師となる者と退職・死亡者の数との関係から、2024年頃から横ばい、2034年頃から減少と推定

⇒ 今後、本県における薬剤師不足の深刻化が予測  
(2035年時点で、250～500人が不足)



### 山口県全体の今後の薬剤師の需給関係

年	需要	供給(70歳未満)		供給-需要		供給-需要+130	
		最小値	最大値	供給最小値の場合	供給最大値の場合	供給最小値の場合	供給最大値の場合
2019年	3290	3,174	3,183	-116	-107	14	23
2020年	3454	3,193	3,211	-261	-243	-131	-113
2021年	3494	3,211	3,237	-283	-257	-153	-127
2022年	3534	3,229	3,264	-305	-270	-175	-140
2023年	3574	3,248	3,291	-326	-283	-196	-153
2024年	3608	3,252	3,303	-356	-304	-226	-174
2025年	3632	3,257	3,317	-375	-315	-245	-185
2026年	3651	3,261	3,330	-390	-321	-260	-191
2027年	3671	3,266	3,343	-405	-327	-275	-197
2028年	3690	3,271	3,357	-419	-333	-289	-203
2029年	3709	3,272	3,366	-437	-343	-307	-213
2030年	3728	3,271	3,373	-458	-355	-328	-225
2031年	3742	3,272	3,382	-471	-360	-341	-230
2032年	3757	3,273	3,392	-483	-364	-353	-234
2033年	3771	3,275	3,402	-496	-369	-366	-239
2034年	3785	3,271	3,407	-513	-378	-383	-248
2035年	3799	3,268	3,412	-530	-387	-400	-257

## 4 結論

今後、山口県において薬剤師不足による医療の質の低下を招かないような対策が必要

- ① 薬剤師の県内の地域偏在対策
- ② 薬剤師の薬局・病院間の偏在対策
- ③ 山口県へ若手薬剤師を誘引する対策 等

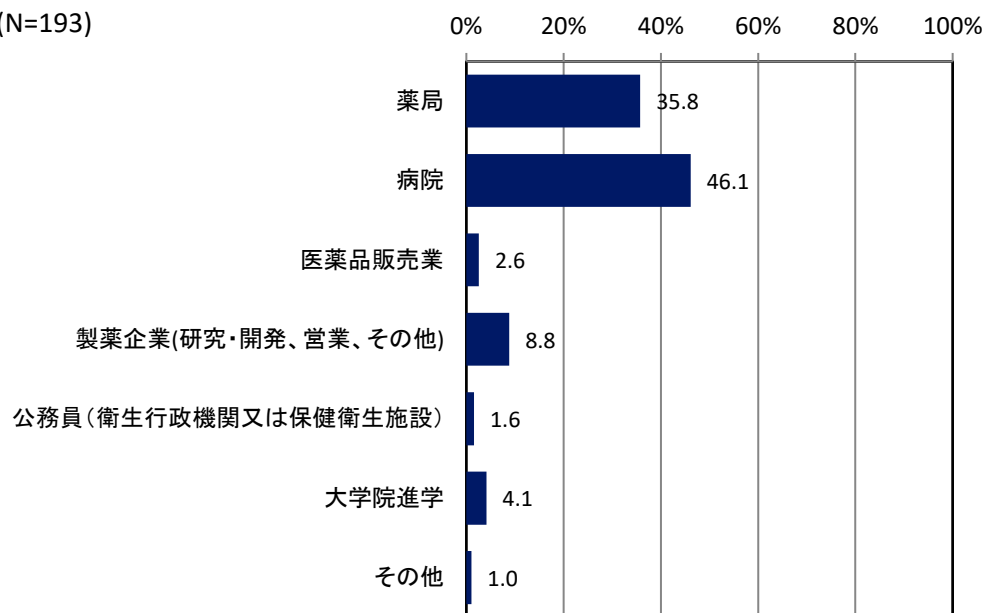
### <以下参考：山口東京理科大学薬学生へのアンケート結果（抜粋）>

○対象者数：3年生138人、4年生103人

○回答者数：193人（回答率：80.1%）

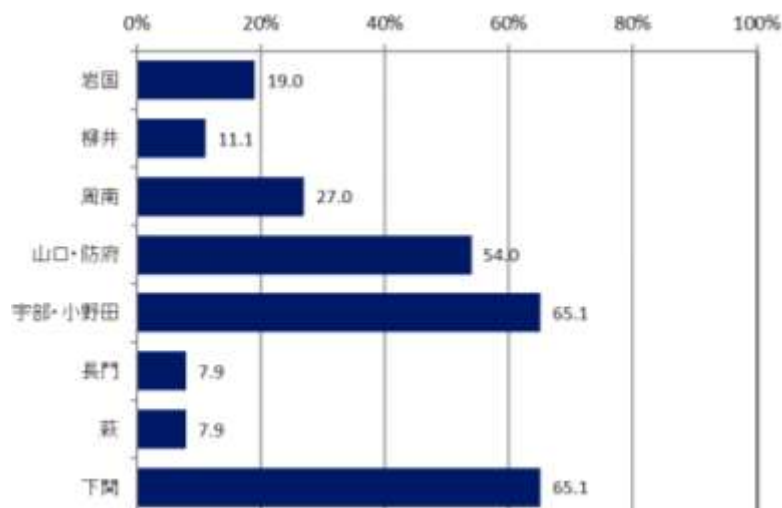
【Q2】あなたは本学を卒業後、どのような職業に就きたいと考えていますか。はっきり決まっていない場合でも現在最も第1希望と思われる職業を1つだけ選択してください。（お答えは1つ）

(N=193)



【Q6】山口県のどの地域(二次医療圏)で働きたい又は働いてもよいと思いますか。該当する地域をすべて選択してください。図を見て回答してください。（お答えはいくつでも）

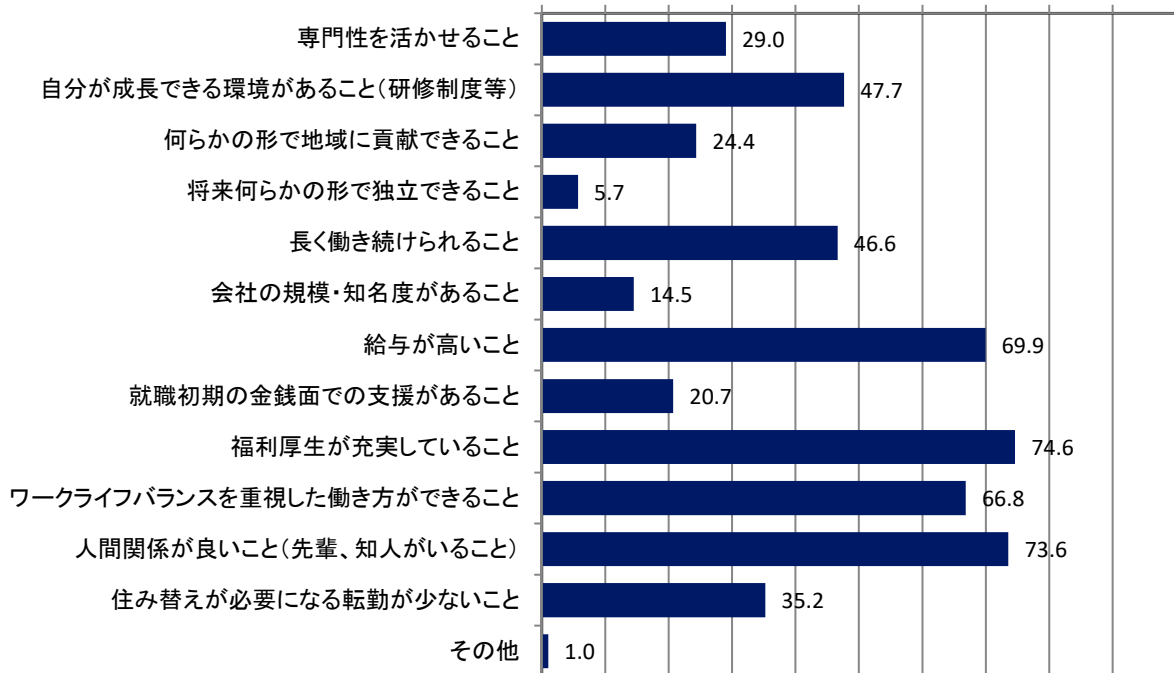
(N=63)



【Q8】あなたが就職先を検討するにあたって地域以外に重要視することは何ですか。該当する項目をすべて選択してください。(お答えはいくつでも)

(N=193)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



上段はN数、下段は%				
Q4 あなたは、本学卒業後又は大学院修了後、どの地域で働きたいと思いますか。(お答えは1つ)				
Q1 あなたの出身高校の所在する地域はどこですか。(お答えは1つ)	全体	できれば山口県で働きたい	できれば他の都道府県で働きたい	特に勤務場所の希望はない
山口県	53	25	17	11
	100.0	47.2	32.1	20.8
山口県以外の中国地方	18	1	14	3
	100.0	5.6	77.8	16.7
四国地方	19	0	16	3
	100.0	-	84.2	15.8
九州地方	73	0	61	12
	100.0	-	83.6	16.4
その他の地方	30	2	22	6
	100.0	6.7	73.3	20.0

上段はN数、下段は%				
Q7 もし、山口県に薬学部を有する大学がなく他の都道府県にある大学の薬学部の学生だったとしたら、あなたはどこで働きたいと思うと思いますか。(お答えは1つ)				
Q4 あなたは、本学卒業後又は大学院修了後、どの地域で働きたいと思いますか。(お答えは1つ)	全体	できれば山口県で働きたいと思うだろう	できれば他の都道府県で働きたいと思うだろう	特に勤務場所の希望はないと思うだろう
できれば山口県で働きたい	28	18	6	4
	100.0	64.3	21.4	14.3
できれば他の都道府県で働きたい	130	0	124	6
	100.0	-	95.4	4.6
特に勤務場所の希望はない	35	0	9	26
	100.0	-	25.7	74.3

## 薬学的な健康サポート推進事業について

### 1 概要

健康維持・増進への取組の支援及び受診が必要な県民を早期に医療につなげるため、薬学的な健康サポート\*を行う薬剤師の「見える化」を実施

※ 身近な薬局・薬剤師が、学術的な知識、経験などを活かした相談対応、県民が自ら行う健康管理への助言、受診勧奨などの総合的な支援を行うこと。

県は、医療・健康・保健等から総合的に県民の支援を行う薬剤師を「山口県健康エキスパート薬剤師」として登録する制度を令和2年度から開始  
・登録数：240人（R4.7.13時点）

【参考】地域別の登録状況

地域	岩国	柳井	周南	山口	宇部	長門	萩	下関	計
人数	18	11	31	61	51	8	6	54	240

### 2 令和4年度の実施内容

#### ○ 薬と健康相談キャンペーンの開催

山口県健康エキスパート薬剤師等による薬学的な健康サポートの一環として、「薬と健康相談キャンペーン」を開催。

##### (1) プレキャンペーン

###### ア 期間

令和4年7月25日（月）～令和4年7月31日（日）

###### イ 行事

###### (ア) キャンペーン参加薬局におけるイベント

県内222薬局（7月19日時点）で、キャンペーン期間中に熱中症予防に対するサポート及び健康相談を実施

###### (イ) 特設会場でのイベント（7月31日開催）

	山口市	萩市	光市	山陽小野田市
会場	アルク葵店	アトラス萩店	アルク光井店	アルク小野田店
時間	9時～16時	10時～15時	10時～15時	10時～15時
実施内容	・健康相談 ・健康チェック ・熱中症予防サポート			

##### (2) メインキャンペーン

###### ア 期間

令和4年10月～11月

###### イ 行事

###### (ア) キャンペーン参加薬局におけるイベント

- ・健康相談会
- ・健康チェック

###### (イ) 特設会場でのイベント

- ・山口県薬剤師フォーラム（11月13日開催）

#### ○ 県民向けオンライン講習会の実施

## 「STOP！大麻！」対策強化事業について

### 1 背景

- ・全国での大麻検挙者数は増加の一途で、令和3年の検挙者は過去最多
- ・県内の大麻検挙者数は、これまで減少傾向であったものの、令和2年、3年は激増（R1：4人 → R2：15人 → R3：24人（R1の6倍））
- ・県内の令和3年の大麻事犯は20代以下が約80%、全員が初犯

大麻検挙者の大半が20歳代以下で、多くはTwitter等のSNSを利用して入手している。SNS利用者は急激に増加しており、さらなる乱用者の拡大が懸念される。

### 2 令和4年度の実施内容、事業内容

#### ○ SNSを活用した警告動画・画像の配信

- ・Twitter及びInstagramにおいて、隠語等の大麻関連キーワードを検索・投稿する者等に対し、警告を実施

#### ○ SNSを活用した県民調査

- ・SNS利用者等を対象に、アンケート調査を実施し、大麻に対する県民意識の実態を把握

#### ○ 事業成果の分析・検証

- ・警察、中国四国厚生局等で構成する連携会議を開催し、より効果的な抑止対策を検討

（警告動画・画像配信）



大麻の隠語等を検出

動画・画像で警告

大麻の違法性等を強く訴えかけ、大麻乱用を未然に防止